はばたけ！JTサンダーズ

竹田 英司

心も男前な八子選手

「八子選手より自分の手に当たってボールが出た、と申告がありました。パナソニックの得点に訂正し、八子選手のフェアプレーに対してグリーンカードが出されました」

館内に響くアナウンスに、私は耳を疑った。ゴールデンウイーク中に大阪であった全日本男女選抜大会（黒鷲旗）準決勝のパナソニック戦。2セットを連取され、崖っぷちに追い込まれたJTがリードしていた第3セットの終盤だった。

ちなみに私は連取された2セットの間、重い一眼レフカメラを首から提げ、他のカメラマンと並んで必死に試合を撮影。会員制交流サイト（SNS）にアップする試合速報の準備もしながら、掲載用の写真をセレクトしていた。戦うのは選手だけではない。マネジャーにはマネジャーの真剣勝負する舞台があるのだ。

冒頭のアナウンスを聞いたのは、ちょうどその時だった。最終的にチームは惜敗したものの、会場は八子選手のフェアプレーを称賛する拍手に包まれた。私が八子選手だったら、知らんぷりをしていただろう。その潔さに、私自身の器の小ささを恥じた。

ファン感謝デーで小学生と記念撮影する八子選手（11日）

「見た目ほどモテない」―。これが八子選手の公式ニックネームだが、とんでもない。八子選手は結婚しても、ベテランと呼ばれる年齢になっても、相変わらず人気がある。それは顔だけでなく、心も男前だからだろう。

バレーだけでなく、心も一流。そんな八子選手はJTのミスター・バレーボールだ。

（JTマネジャー）